

レポート・論文作成のための

阪南大学学会

情報検索 サポートブック

2024

就職活動にも
役立つ!



保存版

1-1 情報検索を始める前に

この冊子は、みなさんがレポートや論文を作成する際に

適切な文献や情報を見つけられるよう、

必要な知識と技能を身につけるためのものです。

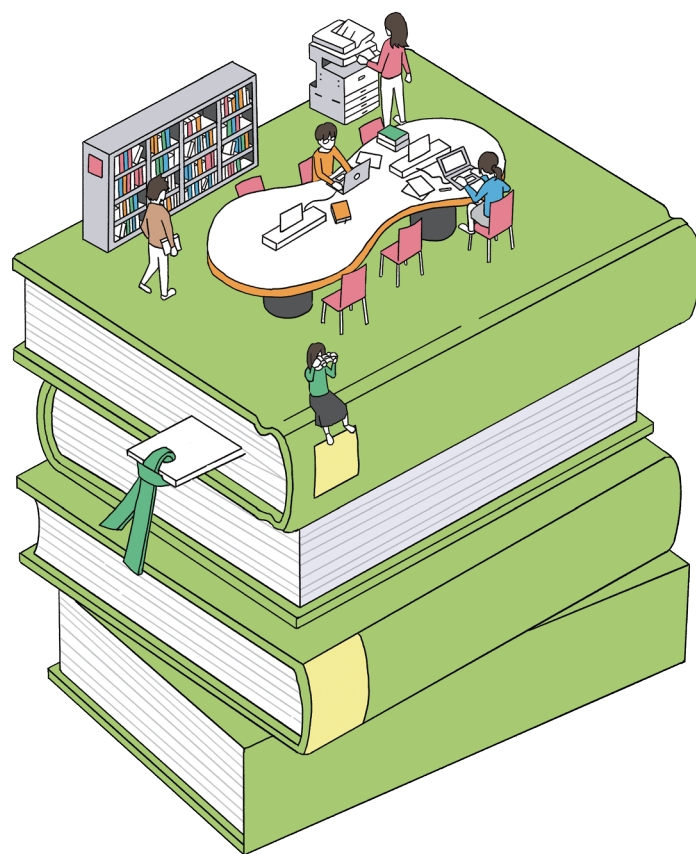
レポートや論文作成では、自分の考えだけを書くのではなく、

今までに公表された研究論文・記事を探し出し（これを先行文献の調査といいます）、

その内容を踏まえて自分の見解をまとめていく必要があります。

段階的な学習ステップを踏み、基礎的な「文献と情報の探し方」を

しっかりと身につけていきましょう。



INDEX

① 情報収集のキホン

- 1-1 情報検索を始める前に 1
- 1-2 情報リテラシー入門 2

② レポート・論文作成

- 2-1 レポート・論文作成フロー 3
- 2-2 文献探索の流れ 4
- 2-3 著作権と情報倫理・研究倫理 5

③ 図書館資料の検索方法

- 3-1 阪南大学図書館ウェブサイト 6
- 3-2 OPAC(蔵書検索)の使い方 7
- 3-3 マイライブラリでできること 9

④ データベース活用ガイド

- 4-1 おすすめデータベース(基礎情報編) 11
- 4-2 おすすめデータベース(専門情報編) 13
- 4-3 電子ブックサービス紹介 裏表紙



2-1 レポート・論文作成フロー



大学生になると、授業の中でレポートを課されることが増えてきます。高校時代までの学習方法とは違って、自分で「調べる」「まとめる」という学習方法が主となり、とまどう人も多いでしょう。ここではレポートを書く前の準備から必要な資料の探し方、基本的な文章の構成の組み立て方までを、3つのステップで紹介します。

STEP1 事前準備

レポートを書く前には適切なテーマ設定を行うことが重要です。例えば大学の講義で「日本の少子高齢化について」というレポート課題が出たときは、課題をそのままテーマにするのではなく、「日本の少子化対策について：海外の事例から学ぶ」など、より具体的な問題を設定してみましょう。講義で学んだ知識を踏まえ、自分の興味・関心に合わせてテーマをさらに絞ると焦点がはっきりしてきます。テーマを設定した段階で、レポートの論理展開や結論の方向性など、大まかなアウトラインを作成するとその後の作業がスムーズに行えます。

STEP2 文献・資料の収集

テーマが設定できたら、次は必要な情報を整理します。図書や雑誌だけでなく、新聞やデータベースを含めた多彩な媒体から幅広く情報を収集することで、論拠のある主張を目指します。図書館やオンラインデータベースで目的の資料を見つけて確認し、レポートに必要なものを選定していきます。この際に、自分の主張したい考えが資料の内容と合っているかを同時に確認しましょう。もし事実と異なっていた場合は、その都度レポートのアウトラインを見直し、全体を通して正しい論理展開が行えるように調整します。

STEP3 本文の作成

レポートに必要な資料がそろった後は、いよいよ本文の作成に入ります。STEP1、2で作成したアウトラインをもとに本文の段落構成を決めて、文章を作成していきます。レポートの構成にはさまざまな種類がありますが、おおまかには「序論」「本論」「結論」の3つの構成でできていることがほとんどです。まず「序論」でレポートの目的・範囲・調査方法・仮説などを簡潔にまとめ、次に「本論」で調べた資料を根拠に自分の考えを主張します。そして本論の内容を再度まとめ、自分の意見や次回の課題を考察する「結論」で本文を締めくくります。最後に、引用した文献や参考とした資料を巻末にまとめてリストにして完成です。

[「引用」について詳しくはP5へ](#)

文献探索を始める前に…

まずは、扱うテーマの概要や基本的な知識、用語を理解することが重要です。言葉の意味、事柄の背景などを調べることでそのテーマの中で特に興味を持つ点や問題点がはっきりとしてきます。また、テーマに関連した新しい「キーワード」を発見することもあります。集めた「キーワード」を使って、いよいよ文献探索のはじまりです。

キーワードの収集に便利なデータベース

- 朝日新聞クロスサーチ (→P12)
- ジャパンナレッジLib (→P13) など

キーワードの収集に便利な冊子体ツール

百科事典、辞書、人名辞典、地名辞典など
→図書館(本館3階)にある「参考図書」コーナーで事典類も使ってみましょう。

文献を探す3つの方法

現物を直接探す

図書館や書店の棚などを実際に目で追って探す方法



いもづる式(連鎖的)に探す

文献の中にあげられている参考文献をもとに探す方法



ツールで探す

オンライン目録やデータベースなどのツールを使って探す方法



- OPACの使い方 (→P7)
- データベース活用ガイド (→P11)

2-2 文献探索の流れ



文献探索フローチャート

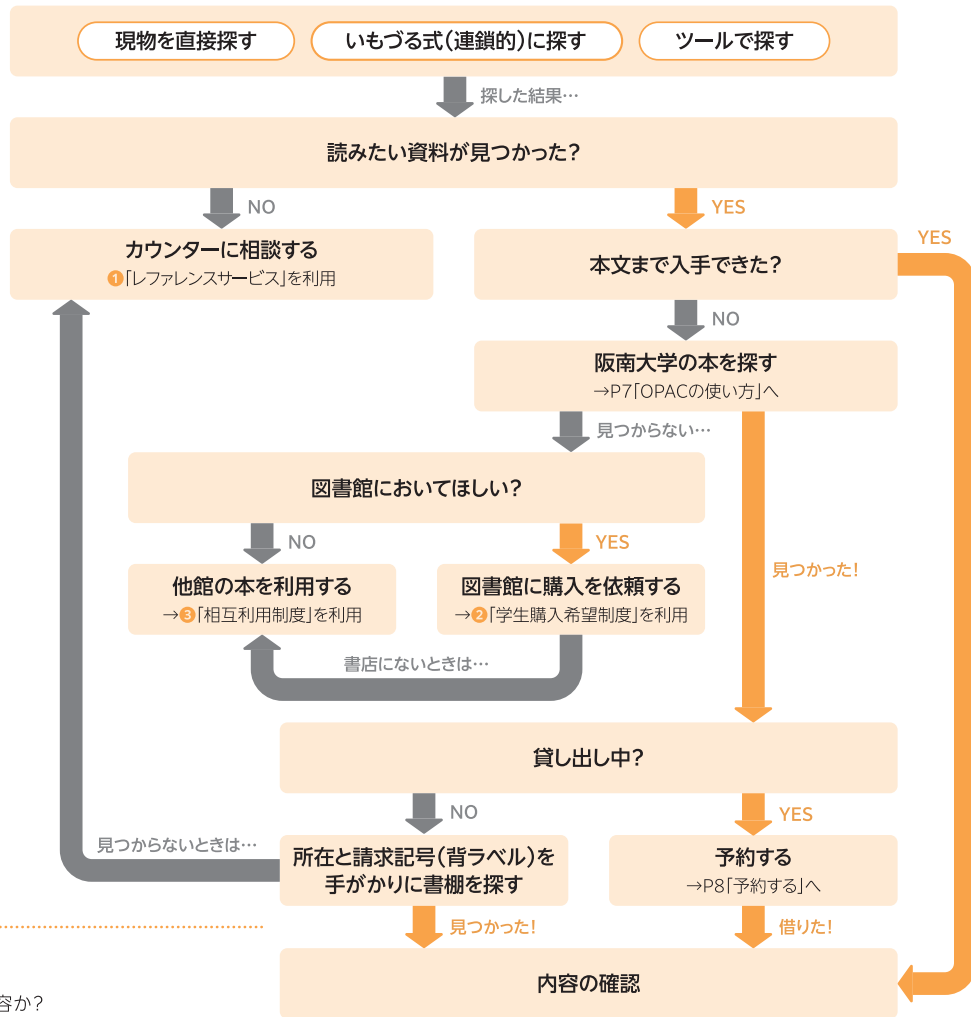
文献探索とは、レポートや研究の参考となる資料（＝文献）を探し出すこと。あるテーマについて、今までにどのようなことが明らかになっているのかは、文献を読んで知ることができます。ここでは、その文献探索の手順をわかりやすく、フローチャート形式で解説します。

1 ツールでチェック
どんな文献がある？

2 所在を確認
その文献はどこにある？

3 文献の入手
どうやって手に入れる？

4 内容の確認
自分が求めている文献の内容か？



文献が見つからないときは…

① レファレンスサービス

利用者が学習・調査・研究を行ううえで必要とする文献や情報に、効率的にたどり着けるようにサポートします。何か調べたいことがある、わからないことがある場合は、気軽に図書館の各カウンターにお問い合わせください。



② 学生購入希望制度

図書館の所蔵資料に利用者の意見を反映させる制度です。マイライブラリ*を通して申し込みができるほか、図書館の各カウンターの所定用紙に希望の資料を記入して提出することで申請できます。申し込んだ資料の購入の可否や利用については、後日申込者へお知らせします。

③ 相互利用制度

利用したい資料が本学図書館にない場合、本学図書館が発行する紹介状を提示することで他大学の図書館を訪問できます。紹介状の発行について、詳しくは本学図書館の各カウンターにご相談ください。また、郵送料・複写代を自己負担し、他大学にある現物資料の取り寄せや複写依頼の申し込みができます。取り寄せ・複写の依頼はマイライブラリ*のほか、各カウンターでも申し込みができます。

*マイライブラリとは、図書館利用に関する自分専用のページ（ポータルサイト）のこと。詳しくはP9をご覧ください。

2-3 著作権と情報倫理・研究倫理

○ 著作物・著作権とは

著作物とは、その人の思想や感情が創作的に表現されたものをいい、言語の著作物（論文・小説・脚本・詩歌・俳句・講演など）のほか、芸術作品・写真・映画などがあります。著作権とは、上記のような作品を創作した著作者が利益を受ける権利のことで、著作物の複製・上演・演奏・放送・口述・上映・翻訳などを含みます。例えば、みなさんが書いたレポートや撮影した写真も創作した時点で著作権が発生し、法的保護の対象となります。ネット上に公開されている記事や画像にも著作権法は適用されるため、SNSやブログへの投稿には注意が必要です。軽率な著作物の利用が深刻な問題へ発展するケースも発生しているので、著作権についての正しい知識と引用のルール、情報リテラシーを身につけましょう。

ChatGPT等の生成AI利用に関するガイドラインについても確認しておこう！



○ 図書館と著作権

図書館で認められているコピーの範囲

他人の著作物をコピーして利用するときは、原則として権利者の了解（＝許諾）が必要です。ただし、例外的に許諾を得ることなく利用できる場合があります。著作権法第31条（図書館等における複製等）で認められている、図書館所蔵の資料を館内のコピー機でコピーするという行為もこれに該当します。ただし、次のような制約条件があります。

- 公表された著作物（図書）の全部はコピーできません。ただし半分を超えない範囲でコピーできます。
- 雑誌、新聞などの定期刊行物に掲載された各論文、その他の記事は全部をコピーできますが、次号が発行されるまでの期間を経たものに限ります。原則として最新号のコピーはできません。
- コピー部数は一人につき一部のみで、同じものを複数枚コピーできません。
- コピー目的は調査研究に限ります。
- 有償、無償にかかわらず、再複製や一般への頒布はできません。

図書館でのコピー機の利用方法

本学図書館では、各フロアにセルフサービスのコピー機（コイン・カード両方式）を設置しています。コピーを行う前に備え付けの「文献複写申込書」に必要事項を記入し、各カウンターに提出してください。コピーできるのは、図書館の所蔵資料のみで、講義でとったノートやメモなどの私物はコピーできません。

○ レポート・論文で引用するときのルール

レポートや論文を書く際には、先行研究などの資料から「引用」を行うことが必須です。自分の考えを補強し、論拠を提示するために、参考文献として他人の作品の一部を借りることで、説得力のあるレポートが作成できます。しかし、出典や引用箇所を明らかにせず他人の文章を自分のレポートに使用してしまう行為は「剽窃（＝他人の著作物を自分のものとして扱うこと）」にあたります。必ず引用のルール・マナーを守ってレポートを作成しましょう。

レポートにおける引用の種類

論文は「先行研究を踏まえつつ、そこに著者自身の考えが加えられているか」¹⁾が審査されるため、引用は適切に行う必要がある。しかし、南川氏による著書には、以下のように著されている²⁾：

Web上のテキストをレポート上に引用することは、非常に簡単である。そのため、Web上からの引用をする際には、紙媒体の資料を扱うときよりも無意識な剽窃に気を付けなければならないのだ。

上記で南川氏が指摘しているように、「コピー」が問題化している。またそのような状況に対して、「問題ないだろうと～(中略)～今すぐに訂正すべきだ。」³⁾と、厳しく注意を喚起する大学もある。

- 1) 阪田 学「レポートはどうあるべきかー卒論の「うまい書き方」」阪南出版、2022年、19ページ
- 2) 南川 文子「倫理教育と研究について」『情報リテラシー』第1巻3号、2022年3月、122-127ページ
- 3) <https://www.hannan-u.ac.jp/information>「レポート・論文における盗用・剽窃行為について」（阪南大学図書館学部）（採録日：2022年3月21日）

短い文を引用する

レポートの文章中に引用を行う場合は、引用部分を「」でくくり、明確に地の文と区別を行います。

長い文章をそのまま引用する

レポート用紙の複数行にわたるような長い文章をそのまま引用したい場合は、引用する箇所をインデント（＝字下げ）して表記します。また、引用部分をイタリック体で表記する場合もあります。

長い文章の一部を引用する

レポートに関係する引用箇所が一文のなかでも離れた場所に存在する場合、省略していることを明記して途中部分を簡略表示できます。

引用した資料の表記方法

レポート作成に使用した資料は、末尾にリストとしてまとめて表記するのが一般的です。そのほかにも、引用箇所ごとに表記する場合もあります。

- 著書(本)の場合：著者名「書名」発行所、発行年、該当ページ
- 雑誌掲載論文の場合：著者名「論文名」「雑誌名」巻号、(発行所)、発行年月日、該当ページ
- 新聞記事の場合：「新聞名」発行年月日(朝刊・夕刊かも記載)
- ホームページの場合：URL、ページのタイトル、著者(または団体)名、引用した時点での日付(採録日)

詳しくは、阪南大学学会「論文の書き方CHECK LIST」を確認！



※例で示した引用方法のほかにも、さまざまな形態が存在します。

3-1

阪南大学図書館ウェブサイト



▲サイトQR

図書館ウェブサイトは、図書館に関するさまざまな情報を掲載するとともに幅広い情報検索ツールの入口として活用できる便利なサイトです。蔵書検索（OPAC）、各種データベースやマイライブラリなどの各メニューにアクセスできます。また、複数の契約データベースをまとめて文献検索できるシステム「なんでも検索（ディスカバリー）」では文献調査の足がかりを探すこともできます。

詳しくはP7へ

各種コンテンツ

阪南UNIPA



メールや講義情報、スケジュール管理、オンライン学習などを学内外から利用できる個人ポータルサイトです。「図書館マイライブラリ」、「学認データベース(学外のみ)」へのリンクも用意されています。

データベース検索

必要とする資料・情報を探すための外部データベースをまとめたサイトです。特に、大学が契約しているオンラインデータベースは情報検索に最適です。契約データベースは、主に学内ネットワークに接続されている端末から利用できます。学外から契約データベースを利用する方法として、リモートデスクトップ（VPN接続）や学術認証フェデレーション「学認（GakuNin）」による接続があります。

マイライブラリ



図書館情報の個人ポータルサイト《マイライブラリ》では、貸出中の資料を予約できるだけでなく、学習・研究に必要な資料が本学図書館にない場合に「学生購入希望制度」や「相互利用制度」を通して資料を収集することもできます。「阪南UNIPA」と同じID・パスワードでログインできます。

詳しくはP9へ



各データベースの詳細はP11へ

3-2 OPAC(蔵書検索)の使い方

○ 検索する

阪南大学が所蔵している図書・雑誌・視聴覚資料・電子ブックなどの資料を、書名や著者名などのキーワードから検索できます。検索結果から資料の所在・貸出状況などが確認できます。

検索ページ

通常検索



キーワードを入力するだけで簡単に検索できます。他機関が所蔵する資料を含めた横断検索ができます。

詳細検索



調べたい資料の情報(書名・著者名・出版年など)が詳細にわかっているときに使います。複数条件を指定することで目的の資料を絞り込めます。

検索結果一覧ページ



検索した資料が一覧で表示されます。この画面の左側に表示される「絞り込み」項目を指定することでさらに絞り込めます。

資料詳細ページ

図書



書名・著者名・出版社・出版年などの資料に関する情報や資料の所在、貸出状況が表示されます。「所在」に表示された文字をクリックすると、棚の位置が表示されます。資料が書庫にある場合は、各カウンターに申し込むことで取り寄せができます。

雑誌

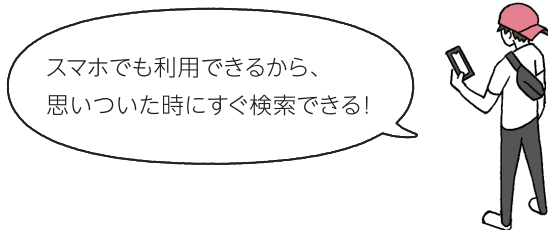


図書と同様に刊年や注記などの資料の情報が表示されるほか、所在ごとの所蔵年や所蔵巻号も表示されます。また「バックナンバーをさがす」機能を使って、雑誌のバックナンバーを検索できます。「受入継続」欄では、その雑誌を今も継続して受け入れているか確認できます。

電子ブック

図書や雑誌などの紙媒体の資料に加え、OPACでは電子ブックの検索結果も表示されます。「電子資料を表示」ボタンから、オンラインで資料をすぐに閲覧できます。また、アクセシビリティ機能として音声読み上げ対応のものや、外国語の発音など音声コンテンツ付きのものもあります。

各種電子ブックサービスの詳細は裏表紙へ



○ 予約する

検索結果に出てきた資料のうち貸出中ですぐに見ることができないものは、**資料詳細ページ**から予約することができます。

- 表示されている「予約」ボタンをクリック。《ログイン》ページへ。
- 「阪南UNIPA」と同じID・パスワードを入力し、マイライブラリの「ログイン」ボタンをクリック。
- 予約する資料を確認して、確認画面へ進み、「この内容で予約」ボタンをクリック。《完了》ページで予約番号が表示され、予約完了。



○ ブックマークする

広い範囲から目的の資料を探すには、ブックマークの機能を利用すると便利です。ブックマークは**検索結果一覧ページ**や**資料詳細ページ**の「登録」ボタンから行えます。また、検索結果一覧ページでは、複数の資料をまとめてブックマークできます。

検索結果一覧ページで、ブックマークしたい資料にチェックを付け、上部にある「一括登録」ボタンをクリック。その後、画面上部のメニューにある「ブックマーク」をクリックします。

ブックマークした資料の一覧が表示されます。登録したブックマークを次回も利用したい場合は、マイライブラリにログインしてください。

3-3 マイライブラリでできること

《マイライブラリ》は、図書館からのあなたへのお知らせ、新着資料の情報、自分が借りている資料や依頼した資料の状況などが確認できる図書館情報の個人ポータルサイトです。本学「阪南UNIPA」のIDを取得している学生、教職員のみが利用できます。ブラウザを閉じてログイン状態は保持されるため、利用後は必ず画面上部のボタンからログアウトを行ってください。

借用中の資料

現在借りている資料が一覧で表示されます。本学図書館から借りているもののほかにも、相互利用制度などを通して他機関から借りている資料も確認できます。

貸出期間の延長



借りている資料の返却期限は、このページの「延長する」ボタンから延長できます。延長手続きをした日を起点に、貸出期間が延長されます。**返却期限日を過ぎると延長できません。必ず返却期限内に延長手続きをしてください。**また、予約のある資料は延長できません。

ブックマーク

P8で「ブックマーク」した資料を確認できます。リスト・メモなどの付加情報を作成／編集できます。

履歴

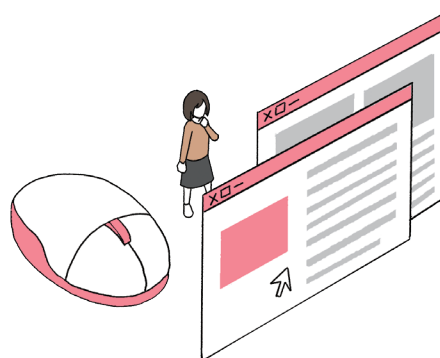
自分がこれまで借りた本を確認できます。

マイライブラリを活用して、効率よく資料を探そう！



ログアウトボタン

ブラウザを閉じて、ログイン状態は保持されます。利用後は必ずこちらのボタンからログアウトを行ってください。



履歴を消去して終了

ブックマーク ログアウト English ヘルプ 阪南太郎さん マイライブラリ

表示します。

新着条件を設定する

新規申し込み

8件 購入を依頼
5件 他機関へ複写依頼 (相互利用制度・手数料必要)
3件 他機関へ借用依頼 (相互利用制度・手数料必要)
2件

★ 情報

111件

- ★自宅でも利用できる図書館サービス
- ★電子書籍ライブラリエ (LibraIE)
- ★電子書籍キノデン (KinoDen)
- ★電子書籍Maruzen eBook Library
- ★電子書籍EBSCO eBook Collection
- ★EDS (データベースの統合検索: ディスカバリーサービス)
- ★EBSCOhost (外国雑誌の抄録および全文検索)
- ★日経BP記事検索サービス
- ★データベース検索サイト

新着情報

新着条件を設定することで、自分が指定した条件にあてはまる新着資料が表示されます。また、新着条件として雑誌名を登録することもできます。

新着条件の設定(図書/雑誌)



自分の知りたい情報に関連するキーワードを設定できます。同じ設定欄に複数のキーワードを設定することで、新着情報をさらに絞り込むこともできます。登録できるキーワードは最大10件です。

新規申し込み

P4で紹介した「学生購入希望制度」、「相互利用制度」はこちらから申し込むことができます。

入手待ちの資料

予約した資料、購入・複写・借用を依頼中の資料を確認/取消できます。

4-1

おすすめデータベース

基礎情報編

フリーアクセス

どこからでもアクセスできるサイトです。

学内専用 | X名*

学認対応

*同時アクセス可能数

利用後はログアウトを忘れずに!!

基本的に学内の端末で利用するサイトです。

学外アクセス方法

学外からアクセスする方法として①リモートデスクトップ (VPN接続)、②学術認証フェデレーション「学認」(英語表記: GakuNin) があります。詳細な利用方法は阪南UNIPAのページに記載されているので、そちらをご確認ください。

①リモートデスクトップ (VPN接続)

「阪南UNIPA」>「困ったときは」タブ>「利用の手引き」>「システム利用の手引き」>「リモートデスクトップ接続」

②学術認証フェデレーション「学認」(英語表記: GakuNin)

「阪南UNIPA」>「図書館」タブ>「学認データベース(学外のみ)」



▲学外アクセス方法

A 図書・雑誌を探したい

フリーアクセス

学認対応

A-1 CiNii Books(2025年度後半にCiNii Researchへ統合予定)

カテゴリー 図書 雑誌

国立情報学研究所 (NII) が作成、収集した書籍に関するデータベースです。全国の大学図書館に所蔵されている資料を一括で探すことができます。最近の本から古典籍、洋書、CD・DVDなどまで幅広く収録されています。

おすすめポイント

- 借りたい資料がどの図書館にあるか、すぐにわかる
- 相互利用制度で資料の現物やコピーの取り寄せができる(有料)

+α 学認でアクセスすると...

- 阪南大学の所蔵情報が優先的に表示される!



▲サイトQR

>> 内容や文章で検索できる!

フリーアクセス

A-2 Webcat Plus

カテゴリー 図書

国立情報学研究所 (NII) が提供する無料の情報サービスです。全国の大学図書館や国立国会図書館の所蔵目録から新刊書の書影、目次データベース、電子書籍データベースまで、多種多様な情報源を閲覧できます。

おすすめポイント

- 「連想検索」を使って、関連する文献を幅広く調べられる
- 書籍の中に収録された短編小説などを作品単位で探せる
- タイトルがわからなくても、文献の内容をもとに情報を絞り込める



▲サイトQR

>> 全国の本が集まる!

フリーアクセス

A-3 国立国会図書館サーチ(NDL SEARCH)

カテゴリー 図書 雑誌記事 デジタル資料

約25,000誌の学術雑誌の書誌情報(著者・論題名・雑誌名)を検索できる「雑誌記事索引」などの各種検索コンテンツを利用することができます。「知りたい」情報へのレファレンス情報を表示、デジタルコンテンツにもアクセスできます。

おすすめポイント

- 絶版本など、入手困難となっている貴重な資料が見つかる
- 入手困難な資料は、データ化されてオンラインで閲覧できるものも
- 相互利用制度で資料の現物やコピーの取り寄せができる(有料)



▲サイトQR

C 雑誌の記事や論文を探したい

フリーアクセス

学認対応

C-1 CiNii Research

カテゴリー 雑誌論文 雑誌記事 博士論文 研究データ プロジェクト情報

学術論文などの文献情報だけでなく、対象となる研究の外部連携機関や機関リポジトリなどの研究データ、研究プロジェクトなど、研究に関わる情報を包括的に検索できます。

おすすめポイント

- 学術論文記事を探したいときにおすすめ
- 資料の引用情報から、関連文献を追跡して探せる

+α 学認でアクセスすると...

- 本文をそのまま読める論文が増える!



▲サイトQR

学内専用 | 2名

C-2 MagazinePlus

カテゴリー 雑誌論文 雑誌記事

さまざまなジャンルの雑誌に掲載されている論文や記事を約2,400万件収録。国立国会図書館の「雑誌記事索引」ファイルを完全収録しているほか、年報類・論文集なども検索できます。

おすすめポイント

- ビジネス誌や一般大衆誌を含め、幅広い分野から記事を探せる
- 阪南大学のOPACと連携しており、図書館の所蔵をすぐ確認できる
- 一部の資料には、本文へのリンクが設定されている場合も



▲サイトQR

知って得する情報活用サイト「データベース検索」からも、この活用ガイドで紹介しているデータベースを利用できます。



B 新聞記事を探したい

学内専用 | 20名

B-1 日経テレコン

[収録範囲]
1975年～

カテゴリー 新聞記事 人物 企業

1975年（昭和50年）以降の日経各紙（日本経済新聞、日経産業新聞、日経MJ<流通新聞>）の記事や主要企業の基本情報のほか、日経デジタルメディア社の速報や市場情報などのマルチメディア情報を閲覧できます。

おすすめポイント

- 朝刊/夕刊の記事を当日からダウンロード・印刷できる
- 北海道から九州まで、全国の「日本経済新聞」の地方経済面が読める
- 各企業の関連記事や業績、財務情報を探せるため、就職活動に役立つ



▲サイトQR

学内専用 | 2名

※はじめに「ログインへ」ボタンを押してください。

B-2 朝日新聞クロスサーチ

[収録範囲]
1879年～

カテゴリー 新聞記事 人物 雑誌記事

1879年（明治12年）の創刊号からの記事・広告約1,600万件をすべて閲覧できます。「週間朝日」、「AERA」の記事はもちろん、人物情報や歴史写真アーカイブ、現代用語事典「知恵蔵」も利用できます。

おすすめポイント

- 過去に起きた事象を調べるのに便利
- 掲載記事そのままの切り抜きイメージを保存・印刷できる
- 「横断検索」で記事本文の選択文字列から関連情報を調べられる



▲サイトQR

学内専用 | 2名

B-3 読売新聞「ヨミダス」

[収録範囲]
1874年～

カテゴリー 新聞記事 人物

読売新聞の記事全文が参照できるデータベース。1874年（明治7年）の創刊号からの「読売」、1989年以降の「The Japan News」の記事検索ができるほか、国語/英和/和英辞典/イミダス、人物情報も閲覧できます。

おすすめポイント

- 明治時代の記事内容も、現代語で検索できる
- 英字新聞「The Japan News」の記事には、元となる日本語記事のリンクが設定されているため、比べて読めば英語学習に役立つ



▲サイトQR

学内専用 | 1名

B-4 毎日新聞「毎索」

[収録範囲]
1872年～

カテゴリー 新聞記事 雑誌記事

地方紙を含めた1872年（明治5年）の創刊号からの毎日新聞の記事を日付やキーワードで検索できます。また1989年以降の「週刊エコノミスト」や2008年以降の英文ニュースサイト「The Mainichi」の記事も閲覧できます。

おすすめポイント

- 現存する日刊紙の中では、最古の記事を調べられる
- 発刊と同じタイミングで更新され、常に最新のニュースがわかる
- 毎日新聞社が実施している世論調査の結果を検索できる



▲サイトQR

学内専用 | 2名

B-5 産経新聞「産経新聞データベース(産経電子版)」

[収録範囲]
1992年～

カテゴリー 新聞記事

1992年9月以降の産経新聞に掲載された記事を検索・閲覧できます。

おすすめポイント

- 過去の記事をキーワードから検索できる
- 「産経新聞電子版」では、広告欄やテレビ番組欄なども含め、実際の紙面と同じレイアウトで記事を読める



▲サイトQR

学認対応

C-4 日経BP記事検索サービス

カテゴリー 企業 雑誌論文 雑誌記事

日経BP社が発行する約60誌の雑誌を一度に検索することができ、レポートや論文の資料作成、就職活動での企業分析、PC・IT知識のスキルアップなど情報収集に幅広く活用できます。

おすすめポイント

- 「日経ビジネス」などの最新号を閲覧・印刷できる
- 業界や企業の最新情報を探せるため、就職活動に役立つ
- PC・ネットワーク関係の指南書も多く収録されている



▲サイトQR

学内専用 | 1名

C-3 ざっさくプラス

[収録範囲]
戦前(明治初期)～

カテゴリー 雑誌記事

戦前(明治初期)から現在まで、日本（旧植民地なども対象）で発行された雑誌を探せます。総合雑誌などの全国誌をはじめ、地方で発行された雑誌など、幅広い雑誌が収録されています。

おすすめポイント

- 記事の検索に加え、所蔵情報やコピーまでワンストップで調べられる
- 検索できる記事は約3,300万件(2024年3月現在)
- 旧字表記にも対応しており、用字や用語を一括で検索できる



▲サイトQR

フリーアクセス

C-5 IRDB(学術機関リポジトリデータベース)

カテゴリー 学術雑誌論文 学位論文 研究紀要 研究報告書

日本の学術機関リポジトリに蓄積された学術情報（学術雑誌論文・学位論文・研究紀要・研究報告書など）を横断的に検索できます。「阪南大学学術機関リポジトリ」を含みます。

おすすめポイント

- 大学の研究成果から論文を探したいときにおすすめ
- 各大学が個別に管理する学術情報をまとめて検索できる



▲サイトQR

4-2 おすすめデータベース 専門情報編

D 企業情報を調べたい

学内専用 | 10名

D-1 日経NEEDS-FinancialQUEST

カテゴリ 企業

財務情報をはじめ、会社属性や大株主情報など幅広い情報を閲覧できます。データは随時アップロードされていくので、常に最新の情報を取得できます。

おすすめポイント

- 最新の経営情報や財務情報入手できる
- 複数の企業データを一括ダウンロードすることで、効率的に企業の財務分析ができる



▲サイトQR

学内専用 | 2名

D-2 eol (有価証券報告書)

カテゴリ 企業

国内約8,000社の上場/非上場企業の基本情報が閲覧できます。企業の本所在地、支店・支社などで絞り込んだり、検索事例集から検索できるサポート機能があります。

おすすめポイント

- 「有価証券報告書」に基づいたデータから、業界の動向や各企業のリスク情報を分析できる
- 企業の株価ランキングや株価推移を調べられる



▲サイトQR

学内専用 | 10名

※はじめに「自動認証ログイン」ボタンを押してください。

D-3 eol企業ナビ

カテゴリ 企業

「有価証券報告書」に基づいた約5,000社の会社概要、財務データ、企業ランキングを閲覧できます。主な経営指標、歴史、労働環境、最近の動向、課題、事業リスクなどの企業情報を調べることができます。

おすすめポイント

- 学生へ向けたデータベースで、就職活動に必要な情報が見つけやすい
- さまざまな切り口の企業ランキングや各企業のマイナス面など、一般的な企業情報よりもさらに踏み込んだデータを得られる



▲サイトQR

学内専用 | 1名

※はじめに「利用者としてログインする」ボタンを押してください。

D-4 ダイヤモンドデータライブラリ for アカデミア

カテゴリ 企業 雑誌記事

経済・ビジネスを中心とした出版社、ダイヤモンド社が保有する、主要16,000社の企業情報を閲覧できます。また、「週刊ダイヤモンド」「ダイヤモンドZAI」などの記事を検索・閲覧できます。

おすすめポイント

- 「週刊ダイヤモンド」などの最新号を閲覧・印刷できる
- 企業の事業所や役員・管理職に関する詳細な情報を調べられる
- 就職活動に役立つおすすめ記事がピックアップされている



▲サイトQR

学認対応

D-5 東洋経済デジタルコンテンツライブラリー

カテゴリ 企業 文献 雑誌記事

『週刊東洋経済』『一橋ビジネスレビュー』などの雑誌や、『会社四季報』をはじめとした東洋経済新報社のさまざまな主要刊行物を検索・閲覧できます。

おすすめポイント

- 「週刊東洋経済」などの最新号を閲覧・印刷できる
- 「就活企業サーチ」機能を使って、志望企業を発掘できる
- 「会社四季報」「就職四季報」で企業の最新採用データがわかる



▲学内アクセス



▲学外アクセス

F 辞書・事典で調べたい

学認対応 | 2名

※はじめに「ログインする」ボタンを押してください。

F-1 ジャパンナレッジLib

カテゴリ 辞書・辞典 人物 企業 雑誌記事

70以上の辞事典、叢書、雑誌が検索できる国内最大級の辞書・事典サイト。知りたい単語について、百科事典や外国語辞書、東洋文庫の記述などから多角的に検索できます。

おすすめポイント

- 言葉や事象の意味そのもの、人物について知りたいときにおすすめ
- キーワードの収集に最適で、レポートや論文のテーマ設定に役立つ
- 最新版「会社四季報」「週刊エコノミスト」を閲覧・印刷できる



▲サイトQR

G 法律情報を調べたい

学内専用 | 2名

G-1 TKCローライブラリー

【収録範囲】
判例は明治8年～
(大審院判例)

カテゴリ 判例・法令 法律雑誌 文献情報

収録データベースから判例・判例評釈・法律雑誌記事を横断検索可能で、明治から現代までの法律を網羅しています。「法学セミナー」「判例タイムズ」「ジュリスト」など法律雑誌の記事本文の閲覧も。税務判決や特許庁審決なども含むデータベースも検索対象です。

おすすめポイント

- あるテーマに関連する日本の法律情報を調べたいときにおすすめ
- 改訂以前の法令や廃止された法令も含めて検索できる
- 判例の基礎情報に加え、法律雑誌の解釈も閲覧できる



▲サイトQR

E 海外の文献や情報を調べたい

学認対応

E-1 EBSCOhost

カテゴリー 学術雑誌論文 雑誌論文 雑誌記事 図書

海外の学術雑誌に掲載されている論文を検索できます。複数のデータベースが含まれており、調べたいキーワードを多彩なジャンルのもとに横断検索することができます。

おすすめポイント

- 海外の雑誌記事・論文情報を知りたいときに便利
- 論文をダウンロードできるほか、印刷・メール送信機能も使用できる
- 引用書式の取得や文献管理ソフトへのエクスポートができる



▲サイトQR

学内専用

E-2 Nexis Uni

カテゴリー 判例・法令 新聞 人物

『The New York Times』、『The Japan Times』、『Los Angeles Times online』など、世界各国の主要英字新聞を対象にまとめて記事を検索できます。そのほかにも、英米法を中心とした世界の法律情報が閲覧できます。

おすすめポイント

- 新聞記事だけでなく、テレビ・ラジオ放送、ニュース配信やブログまで、幅広い媒体の海外メディアから情報を探せる
- GoogleドライブやMicrosoft OneDrive にデータを保存して共有できる



▲サイトQR

学内専用

E-3 NII-REO 人文社会科学系コレクション

18c, 19c & 20c House of Commons Parliamentary Papers (HCPP)

カテゴリー 文献

1688年の名誉革命から1834年のウェストミンスター宮殿焼失までの期間の議事録や上・下院議院の議会日誌など、18世紀から20世紀にわたる英国下院議会文書の書誌及び全文を閲覧できます。

おすすめポイント

- イギリスの歴史、社会、政治、経済などを研究するうえで必要不可欠な一次文献を閲覧できる
- 文書の書誌に加え、付属する図表や地図などの画像データも入手できる



▲サイトQR

学認対応

E-4 GALE Primary Sources

The Making of The Modern World (MOMW) I / II / III

カテゴリー 文献

ロンドン大学ゴールドスミス文庫、ハーバード大学クレス文庫、コロンビア大学・広島経済大学セリグマン文庫などから経済史・経済思想史、社会史・社会思想史などに関する資料群をデジタル化しています。

おすすめポイント

- 15世紀から20世紀初頭までの500年にわたる世界の近代史に関する資料にアクセスできる
- 国際経済のルーツを探るうえで不可欠な資料が集成されている



▲サイトQR

学認対応

E-5 GALE Academic OneFile

カテゴリー 新聞 雑誌論文 雑誌記事

海外の学術誌から一般誌、新聞、報告書、事典、ビデオまで約19,400タイトルを収録したジャーナルデータベース。一般雑誌を中心とする『GALE General OneFile』も利用できます。

おすすめポイント

- 一般誌『The Economist』『Newsweek』などを閲覧・印刷できる
- 新聞『The Times』『The Sunday Times』『Financial Times』『The New York Times』『The Washington Post』などを閲覧・印刷できる



▲サイトQR

学認対応

E-6 GALE eBooks

カテゴリー 図書

『GALE Academic OneFile』を運営するGALE社による、書籍を中心としたデータベースです。翻訳機能が充実しており、収録されている書籍は日本語を含む23カ国語に翻訳することができます。

おすすめポイント

- 音声読み上げ機能を使って、英語のリスニング学習ができる
- URLを保存して後から同じページを閲覧できる『Get Link』機能がある
- 資料のテキストデータを自動で引用書式に変換できる



▲サイトQR

上記以外にも、「阪南大学図書館」ウェブサイト > 「データベース検索」 > 「海外の文献・情報」 から、引用情報も参照できる学術情報プラットフォーム「Web of Science」、電子ジャーナルのアーカイブ（バックナンバー）を提供する「JSTOR」にアクセスできます。

H 統計データを調べたい

フリーアクセス

H-1 政府統計の総合窓口 e-Stat

カテゴリー 統計 白書

各府省の協力のもと総務省統計局が運営・管理を行っている政府統計ポータルサイト。主要なデータについて統計分析が容易に行えるほか、データを活用するための外部リンク集も存在します。

おすすめポイント

- 人口や国土、各種業界などに関する国内の統計データが閲覧できる
- ほとんどのデータはExcel形式でダウンロードできるため、グラフが必要なレポートや論文に活用しやすい



▲サイトQR



\\ すぐに読める! //

4-3 電子ブックサービス紹介

電子ブックの
購入リクエストも受付中!

阪南大学図書館のOPACから利用できる^{※1}各種電子ブックサービスを紹介します。電子ブックサービスには、電子コンテンツを借りて読む「貸出型サービス」と、画面を開いている間だけ利用できる「閲覧型サービス」の2種類があります。画面上ですぐに資料を読めるだけでなく、電子ブックの印刷・保存・電子メール送信などの機能^{※2}がついているサービスもあります。また、一部の電子ブックは、アクセシビリティ機能として音声読み上げに対応しています。

同じ電子ブックへの同時アクセス数は1名となります。他の人が閲覧中の電子ブックにアクセスすることはできません。

音声読み上げ対応の
電子ブック一覧▶



貸出型サービス



文芸や教養・実用和書などを中心とした紀伊國屋書店のクラウド型電子図書館。資格・就職・旅行ガイドブックが充実しています。自宅でも外出先でも、スマホやタブレットで快適に利用できます。貸出期間は2週間で、貸出期限を過ぎると資料は自動で返却されます。^{※3}



▲サイトQR

閲覧型サービス



調査研究に役立つ専門書や学術和書が収録されています。一部の書籍はページをPDFでダウンロードすることができ、専用アプリ「bREADER Cloud」を使えば、ダウンロードした資料にしおりやマーカーを記録することもできます。



▲サイトQR



学術研究のための専門書や教養書、英語多読本が閲覧できます。キーワードによる全文検索ができ、目次から読みたい章のページを表示できます。資料をダウンロードできるほか、文献管理ソフトで扱えるデータ形式に変換することもできます。^{※2}



▲サイトQR



主に洋図書・学術書籍が充実しているサービスです。資料をダウンロードし、そのまま任意のアドレスにメール送信できる機能があります。^{※2}



▲サイトQR

上記4つの電子ブックサービスは、「学認」の仕組みを介して、学外で利用可能です（詳しくはP11へ）。

※1 「EBSCO eBook Collection」の洋書コンテンツを除く。

※2 コンテンツによりダウンロードできるページ数は異なります。また、印刷・保存は著作権法に則った私的使用などの範囲内に限られます。

※3 LibrariEの電子コンテンツのほとんどは有期限回数制限（2年間または52回貸出）型です。一定の期間、利用回数を超えると読めなくなります。

図書館のイベントやおすすめ本などSNSで情報発信中です!

